令和４年度 原 町 支 部 総 会 開 催 (※1)

～ 原 町 支 部 創 設１００年 ～

５月 14 日（土）午後１時から南相馬市原町区の「石神生涯学習センター」で、原町支部の総会が開催されました。

令和２年度は、新型コロナの蔓延で、各地から集まる本部総会はもちろん、人が密になる懸念から各支部の総会もすべて中止となりました。

平成３年度は、原町支部が唯一の総会開催支部でした。今年度も、現在のところは原町支部だけです。

平間勝成 (※2) 支部長さんを始めとする役員の方々を中心に、感染防止には細心の注意を払い、総会のみで懇親会はなく、記念写真も、シャッターの瞬間だけマスクをはずすという徹底振りでした。

高玉利一 (※3) 事務局次長さんの進行で会は始まりました。

開式の言葉は、松田武久 (※4) 副支部長さん、校歌は歌唱せず、今年も林博太郎 (※5) さんのハーモニカ演奏でした。物故者への黙祷の後、平間支部長さんの挨拶があり、来賓祝辞は、馬城会会長村山と相馬高校の瓜生康弘校長先生、馬城会事務局長の今野直樹 (※6) 先生が行いました。

続いて、菊地洋一 (※7) さんが議長に選出され、議事録署名人として、羽生賢次 (※8) さんと但野隆一 (※9) さんが指名されました。加藤悟郎 (※10) 事務局長さんが議案を説明、決算、予算（案）、そして原町出身若駒の活躍等を支援する特別会計の承認などが滞りなく承認されました。

締めは、志賀忠重 (※11) 副支部長さんの言葉で閉式となりました。

会を一旦閉じたあと、林博太郎さんのハーモニカで「青い山脈」など懐メロ数曲の見事な演奏があり、総会に花を添えるとともに、それが終わる頃には、撮った記念写真が全員分出来上がり、有難く頂いて帰途に着きました。

ところで、この４月に平間支部長さんから、原町支部はいつ頃創設されたのかその歴史を知りたいとのご要望がありました。本部事務局にその資料は見当たらず、記念誌「相中相高八十年」と「相中相高百年史」の記載に頼りました。

そして「相中相高八十年」の 336 ページに、

『大正 11 年 12 月に原町支部、翌２月には小高支部、そして標葉郡在住の卒業生による双葉馬城会が創設された。』とありました。「相中相高百年史」にも同様の記載があります。

大正 11 年は西暦 1922 年に当たりますので、奇しくも今年は原町支部創設 100 年の歴史的な年であったことがわかりました。

当時の町村は、明治 22（1889）年の明治の大合併後の町村でした。昭和 28 年の馬城会役員表 (※12) によると現在の原町支部は、原町、高平、石神各の支部に分かれていたようです。

なお、「相中相高八十年」の “ 2 大正期の馬城会” (※13) の中に

『４年、御大礼記念事業として、御真影奉安所建設に会として協力することを決定。会員一人につき、30 銭以上の募金に応じ、東京、仙台、福島、原町、小高の各支部で集約することになる。……』

『７年、会運営根幹というべき、馬城会基本金の募集について協議。北海道、福島、仙台、東京、大阪、九州、台湾、米国、原町、小高、浪江、新地の各支部で集約することになり、……』

に原町支部という記載があります。

また、「相中相高百年史」の “(12) 各支部（地区馬城会を含む）(※14) の再編強化” の中に

『従来、支部には本部の認定を受けている場合と、地区の懇親会を中心にした支部(地区馬城会)とがある。いずれにしても、母校に対する愛情は強く、一旦母校にイベントがある場合、積極的な支援活動に入るのが、常である。しかし、イベント終了とともに休眠状態に入る例もないわけではない。場合によっては、懇親会的な支部から、正式な支部に発展する場合もある。以前に支部創設の記録がありながら、その後再び「支部創設」の記録が出るのは、その辺の事情から来るのであろう。実際に正式な支部が登録されて登場するのは、２、３の支部を除いて、1978（昭和 53）年頃になる。……』の記述がなされている。

(※１）令和３年度原町支部総会　馬城かわら版第 86 号に掲載。

(※２）相高普第 22 回、昭和 45（1970）年卒、原町出身。

(※３）相高普第 28 回、昭和 51（1976）年卒、原町出身。

(※４）相高商第１回、昭和 27（1952）年卒、大野出身。

(※５）相高普第３回、昭和 26（1951）年卒、原町出身。

(※６）相高普第 34 回、昭和 57（1982）年卒、八幡出身。

(※７）相高普第 30 回、昭和 53（1978）年卒、原町出身。

(※８）相高普第３回、昭和 26（1951）年卒、原町出身。「相馬高校バレーボール部の生い立ち」馬城かわら版第 123 号に掲載。

(※９）相高普第 27 回、昭和 50（1975）年卒、原町出身。

(※10）相高普第 23 回、昭和 46（1971）年卒、新地出身。

(※11）相高普第 15 回、昭和 38（1963）年卒、飯豊出身。

(※12)「相中相高百年史」645 ページ。

(※13)「相中相高八十年」334 ページ ～。

(※14)「相中相高百年史」660 ページ ～。

（ 5月 28 日　文責　村山 ）